

1990年

阿倍仲麻呂を顕彰する望月望郷詩碑
を、日本書道院、日中文化交流協会、
鎮江市人民对外友好協会など、共同
して鎮江市北固山に建立した。除幕
式に出席した(左から)沈鵬中國書法
家協会副主席、田中凍雲日本書道院
会長・協会常任理事、白土吾夫専務
理事の諸氏

——一九九〇年十一月二日



野村好弘団長(左一)ら日本「民法・環境法」学者訪中団が訪
中、王家福所長(右一)ら中国社会科学院法学研究所の研究者
諸氏と学術交流を行なう一行。1979年に加藤一郎氏らによ
って始められた同訪中団の交流は、現在も続いている

——1990年8月29日 北京

話劇「天下第一楼」を上演 一九八
三年の「茶館」につづく、北京人民
芸術劇院の再度の訪日公演。北京ダ
ックの老舗をモデルとした北京の庶
民生活を描いた舞台は多くの観客を
魅了した

——一九九〇年十一月 東京



第十七次学術医学図書を贈呈、当協会
が協力。
◎10月 松山市民体育代表団(平井龜
理事)の諸氏

——一九九〇年十一月二日

た。十月、東西ドイツが統一。

「九〇年の主な交流」

一月早々に北京の戒嚴
が解かれ、交流は活発さ
を取り戻した。北京では
アジア競技大会が開催さ
れ、これに伴う都市開発
で北京市北郊の様相が一
変した。日本ではバブル

経済の崩壊が始まる。八月にイラクが
クウェートに侵攻、国連が多国籍軍を
組織してこれに対峙、戦雲が立ち込め
た。十月、東西ドイツが統一。

◎3月 「日中婦人書道交流貴陽展」
(当協会、日本書道院等主催)、開幕式

参加訪中団(田中凍雲団長)訪中。「山
東竜化石彫刻・中国地質博物館工作組

(黄正之団長)来日。「第七回中国書道

研究会」訪中団(武士桑風団長)訪中。

◎4月 中中国國家文物局代表団(張徳
勤局長、宋北杉(遠家郷の諸氏)来日。
中国人民对外友好協会代表団(韓叙団

長、于是之、蔡壬癸、吳瑞鈞、王雲濤
の諸氏)来日。日本演劇人訪中団(内

田喜三男団長、秤屋和久副団長、勝野

一郎(中島京子、白土吾夫、佐藤純子、
矢永浩子の諸氏)が訪中。團伊玖磨氏

が大連で「日中友好文化交流コンサート」。

◎5月 中島京子故中島健蔵会長夫
人ト。夫団長、小林武彦、原田稔、前田伸治、

一行(中島京子、白土吾夫、佐藤純子、
矢永浩子の諸氏)が訪中。團伊玖磨氏

が大連で「日中友好文化交流コンサート」。

◎6月 日本出版印刷代表団(相賀徹、

劉得寛、三田地宣子、土田哲也、安次
富哲雄、植木紹雄、畔柳達雄、加藤美穂子、
文、大川省藏、北河隆之、原信之の諸
氏)訪中。

◎9月 日本現代俳句協会代表団(金

子兜太団長、金子皆子、小宅容義副団
長、牧石剛明秘書長、佐藤祥子秘書)

一行十五名訪中。東京で「日中刻字文

化・環境法」学者訪中団(野村好弘団
長、石外克喜、畔柳達雄、加藤美穂子、
劉得寛、三田地宣子、土田哲也、安次
富哲雄、植木紹雄、浅野直人、新美育
文、大川省藏、北河隆之、原信之の諸
氏)訪中。

◎10月 現代俳句協会代表団(金

子兜太団長、金子皆子、小宅容義副団
長、牧石剛明秘書長、佐藤祥子秘書)

一行十五名訪中。東京で「日中刻字文

化・環境法」学者訪中団(野村好弘団
長、石外克喜、畔柳達雄、加藤美穂子、
劉得寛、三田地宣子、土田哲也、安次
富哲雄、植木紹雄、浅野直人、新美育
文、大川省藏、北河隆之、原信之の諸
氏)訪中。

◎11月 日本現代俳句協会代表団(金

子兜太団長、金子皆子、小宅容義副団
長、牧石剛明秘書長、佐藤祥子秘書)

一行十五名訪中。東京で「日中刻字文

化・環境法」学者訪中団(野村好弘団
長、石外克喜、畔柳達雄、加藤美穂子、
劉得寛、三田地宣子、土田哲也、安次
富哲雄、植木紹雄、浅野直人、新美育
文、大川省藏、北河隆之、原信之の諸
氏)訪中。

英雄、尾藤俊治、竹内照夫、橋村琢哉、岡内實生、佐藤祥子の諸氏)が訪中。
◎7月 日中共同企画「中國可可西里
國和歌俳句研究会成立大会」日本歌人・
俳人訪中団(近藤芳美団長、金子兜太、
中野菊夫両副団長、窪田章一郎、近藤
とし子、金子皆子、佐藤祥子らの諸氏)
訪中。梶原拓知事、加藤巳一郎(中日新聞会長、
白土吾夫当協会専務理事の諸氏及び中
國代表団(王沢九団長)が出席。松山
市中学生訪中団(團長・崎山昌昭松山
市都市整備部部長)一行十一名訪中。
◎8月 日本少年野球選手団(川村富
男団長)訪中、当協会が協力。日本「民
法・環境法」学者訪中団(野村好弘団
長、石外克喜、畔柳達雄、加藤美穂子、
劉得寛、三田地宣子、土田哲也、安次
富哲雄、植木紹雄、浅野直人、新美育
文、大川省藏、北河隆之、原信之の諸
氏)訪中。

◎10月 松山市民体育代表団(平井龜
理事)の諸氏

——一九九〇年十一月二日



「中国文物愛好者」訪中団の圓城寺次郎団長(右一)を歓迎し、多くの親しい友人が一堂に会した。(後左から)馬洪国務院経済発展研究センター総幹事、孫平化中日友協会長、胡繩中国社会科学院院長、韓叙对外友協会長、張文閣外事局長(前左)、孫尚清副総幹事(前右)の諸氏。加山又造氏(右二)と ——1990年10月20日 北京

——1990年10月20日 北京



对外友協の韓叙会長(前左三)、葛綺雲夫人(後左一)、陳昊蘇副会长(前右一)、王效賢副会长(後中)、吳瑞鈞副秘书长(後右)と歓談する協会代表団の團伊玖磨団長(前左二)、團和子夫人(前左四)、白土吾夫副団長(前右四)、利根山光人(前右二)、矢代静一(前右三)、井出孫六(前左一)の諸氏

——1990年12月19日 北京

〈右〉作家の鄧友梅氏(左一)を自宅に訪ね、北京市民の生活などについて話を聞く日本作家代表団の(右へ)三浦哲郎団長、黒井千次、高井有一、秋山駿の諸氏。鄧友梅氏は、日中戦争中、十四歳で日本へ強制連行され、徳山の工場で労役に服した経歴を持つ。そのときの体験を描いた作品『さよなら瀬戸内海』が日本でも翻訳出版されている

——1990年9月17日 北京



雄團長)一行三十五名訪中。日本「中國文物愛好者」訪中團(圓城寺次郎團長、加山又造、加山みどり、坂本五郎、室伏草郎、木村祐吉、笛津悦也、大根田信雄、木村美智子秘書の諸氏)訪中。中国石窟シリーーズ完結を祝い、平凡社(下中弘社長)の招きで中国・文物出版社の王仿子前社長、高履芳前副社長、楊椿社長の諸氏が来日。日本文化界団體代表団(江崎誠致團長、新海洋前野昭吉、伊藤礼、伊藤啟子、斎藤宜郎、笠原淳、白川正芳、大門武二、大島正雄、西村春海、湯川恵子、中野暁、馬場隆の諸氏)訪中。中国演劇家代表団(趙尋團長、常香玉副團長、梅紹武、張繼青、孫萍、李振遠、祝鶴の諸氏)来日。北京人民芸術劇院「天下第一樓」表団(邵宇團長、王學仲副團長、歐陽中石、喬仁和、王振華の諸氏)来日。北京訪日公演、民主音楽協会、朝日新聞社主催、当協会後援。日本「美術評論家」代表団(鈴木進團長、田中穣、海上雅臣、ワシオ・トシヒコ、島田康寛、大塚雄三、

秘書・小暮貴代の諸氏) 訪中。日本音楽家代表団(伊藤京子団長、三善清達、小林武史、高丈一、大和田葉子、佐藤祥子秘書の諸氏) 訪中。

◎12月 江蘇省鎮江市の北固山に阿倍仲麻呂を顕彰する「望月望鄉詩碑」が完成、日本書道院、当協会と鎮江市人民対外友好協会などが共同で建立、除幕式に日本書道院訪中団(団長・田中凍雲会長、顧問・白土吾夫当協会専務理事)一行百二十名が出席。日本文化交流協会代表団(團伊玖磨團長、團和子、白土吾夫副団長、利根山光人、矢代静一、井出孫六、佐藤純子の諸氏) 訪中。

遺唐使船の帰路の出港地に近く、山容が奈良の三笠山に似るといわれる鎮江・北固山に、阿倍仲麻呂の歌を刻んだ「望月望鄉詩碑」が建立された。中国の山野に立つ、協会の名を刻んだ石碑がこれで二つになった。もう一つは一九八二年、浙江省余姚市童泉山に建てた「朱舜水先生記念碑」。前者は日本書道院、鎮江市人民対外友好協会等との共同建立。後者は水戸で没した明末の儒学者・朱舜水の故郷に、逝世三百年を記念して日本・朱舜水先生記念会と共同建立したもの。石に文字を刻んで記念碑を立てることは、日本の場合、おそらく中國から学んだのだろう。それは、限りある人の、永遠なるものへの憧憬か、石碑には、朽ちることなき存在が期待されている。